産業の動向

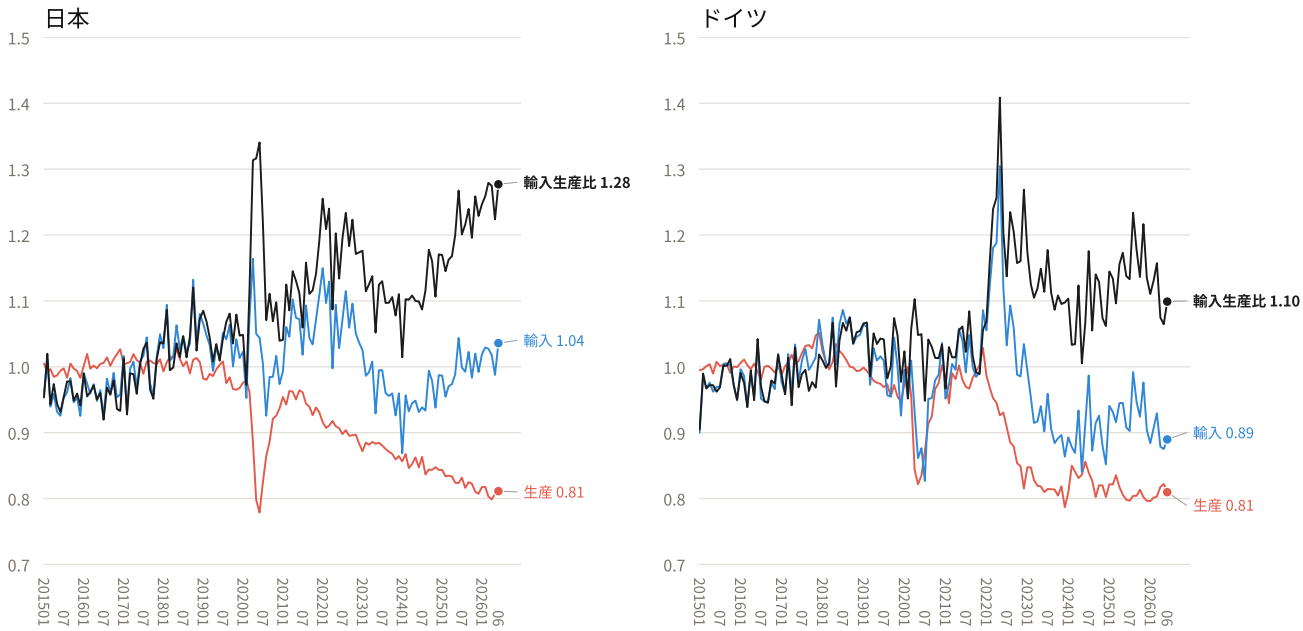
エネルギー多消費産業の製品輸入、日独の分岐

エネルギー多消費（EITE）製造業の生産は日本・ドイツともに低下し（EM2601）、2026年6月には2015–19年平均を2割ほど下回る。しかし、輸入の動きは非対称である。輸入指数は同月に日本が1.04、ドイツが0.89と、2015–19年平均対比で逆方向に動いている。輸入指数を生産指数で除した輸入生産比指数も、日本1.28、ドイツ1.10まで乖離した。日本の輸入は2024年に入ってから増加傾向が明確となっており、ホルムズ危機以前から確認される動きである。ほぼ同程度の生産減少が、日本では輸入増加を、ドイツでは輸入減少を伴っている。この非対称は、生産減少の大きさだけでは説明できず、日本のEITE製造業における国内供給と輸入との関係に構造的な変化が生じている可能性を示している。

野村浩二・稲場翔（慶應義塾大学産業研究所） 2026年9月12日

生産は日独ともに減少するなか、輸入は日本で増加、ドイツで減少

2015年1月–2026年6月におけるEITE製造業の輸入・生産・輸入生産比指数の月次推移（日本・ドイツ）



単位：指数（生産・輸入指数は2015–19年平均値=1.0）。出典：ECM Database 202608。
注：輸入生産比指数は、輸入指数を生産指数で除した比率として定義。EITE（energy-intensive and trade-exposed）製造業の生産量は、紙パルプ製造業（印刷業を除く）、化学工業（医薬品製造業を除く）、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業の集計値（前暦年粗生産額ウェイトによるトランスログ指数）、輸入量は、同産業に対応する生産物の輸入量の集計値（前暦年輸入額ウェイトによるトランスログ指数）として定義。

エネルギーモニター | EM2604 慶應義塾大学産業研究所

エネルギーモニターについて

エネルギーモニター（Energy Monitor: EM）は、主要国のエネルギーコスト・需給および産業の動向を紹介するニュースレターです。分析は、エネルギーコスト・モニタリング（Energy Cost Monitoring: ECM）が毎月公表するECM Database、およびその基礎資料となる国内外の公的統計に基づきます。掲載する各指標は、基礎データの更新・拡充や推計方法の改善に伴い、今後改訂される場合があります。

リンク

エネルギーモニター
ECM Japan
ECM Dashboard

エネルギーモニターのバックナンバーおよびニュースレター配信の登録は専用サイト、ECM各種指標の国内動向はECM Japan、国際比較はECM Dashboardをご覧ください。